

# 信頼回復に向け対話を

## シニアネット ワーク連絡会 再稼働は日本に必要

日本原子力学会シニアネットワーク連絡会(SNW)による「原子力は信頼を回復できるか？」



をテーマとしたシンポジウムが三日、東京工業大で行われた(II写真)。基調講演では、葛西敬之・JR東海会長が、「日本のエネルギー政策——原子力の役割」として、繰り返し返される事故で信頼を失い赤字を積み重ねてきた自身の国鉄勤務時代と原子力の現状を比較しながら語った。

人件費が大半を占めていた国鉄の財政とは違い、電力料金は燃料費が大平を占めていることを考えると、ほとんどの原子力発電所が止まっている。電力業界は体力を消耗しながら供給を続けていると指摘。まず電力料金の値上げは必須だといふこと——を国民にきちんと説明していくことが重要だとした。

起らないとしたら、日本がどういふ状態になるか国民には伝わらないと。また、安倍政権の経済政策には安定して燃料コストの安い原子力発電の使用が欠かせないことから、再稼働に向けて①原子力は安全に管理できるという②ある程度の原子力発電所が止まっている。電力業界は体力を消耗しながら供給を続けていると指摘。まず電力料金の値上げは必須だといふこと——を国民にきちんと説明していくことが重要だとした。

目的の達成には「合理的で正当性があること」を、全てを投げ打ってでも断固としてやっていく「リーダー」が必要だことを強調。自民党がこの数か月のうちにも前政権の棚卸しをして問題提起し、現状を変えていかなければならないと警鐘を鳴らした。

最終報告書ドラフト九月公表  
学会事故調  
日本原子力学会の福島発電所事故調査委員会は七月三十一日、最終報告書のドラフト版を九月初めに公表することを明らかにした。同委員長の田中知氏(東京大学教授)が同日会合終了後、記者団に述べたもの。

故吉田所長 告別の会  
東京電力  
東京電力は六日、七月九日に永眠した故吉田昌郎・同社執行役員/元福島第一原子力発電所所長の「告別の会」を二十三日午後一時から二時まで東京・港区の青山葬儀所で執り行うことを発表した。喪主は妻・洋子さん。献花のみで、参加は平服でとのこと。香典、供花、供物等は辞退している。

## 運転管理で電力等協力 運営見直し 保守体制強化図る

もんじゅ 運営見直し 保守体制強化図る  
文部科学省の日本原子力研究開発機構改革本部(本部長 下村博文文科相)は七月二十九日、「もんじゅ」の運転管理に関する見直しの方向性を示した。運営組織は原子力機構とするが、運転管理については、電力・メーカーの協力により、保守管理体制の強化を図ることとし、八月下旬の会合で、組織体制・業務見直しの発端となった「もんじゅ」の運転管理に関する見直しは、抜本的改革を実施し、失われた信頼の回復に向けて安全を最優先とする体制に改めることが不可欠との基本認識を示し、①組織トップのマネジメントによる安全確保②電力会社の協力強化③メーカー体制の見直しによる保守管理体制の強化——を改革の柱に据えた。これを踏まえ、具体的な組織体制として、運転管理部門を原子力機構から切り離す「運転外部委託」も一選択肢に上がったものの、法令上の制約から、運営組織は機構とし、トップマネ

シメントによる安全第一とした「発電所」としての役割に特化した運転管理部門を整備することも、電力会社の運転経験者の参画、主要メーカー・関連会社等のノウハウ活用などにより、体制強化を図ることとしている。

泊発電所ピアレビュー終了  
WANO  
北海道電力の泊発電所は一日、七月十八日から実施していた世界原子力発電事業者協会(WANO)によるピアレビューを終了した。WANOは、現在、原子力規制委員会が新基準への適合性審査を進められている3号機が再起動について、長期停止から運転への移行が確実に行われるよう、総合的な計画を検討することを同社に対し推奨した。

組織改革で四ドメイン体制へ  
三菱重工  
三菱重工は七月三十一日、現在の九つの事業本部からなる組織体制を再編し、四事業ドメインからなる新たな組織体制に移行することを発表した。

## 地下水流出の抑制急ぐ

### 福一汚染水対策 初の専門家会合



入経路の調査状況、放射能濃度の測定結果、護岸策の他、汚染水の供給源となる海側トレンチの水抜きなど、抜本的対策について検討を行う。また、東京電力は二日の会合で、地下水からのトリチウム流出量の暫定値を報告した。規制委では、海洋モニタリングについて別途、検討会を立ち上げる(II写真)としている。

原子力規制委員会の福島第一発電所発生した汚染水の対策を検討する専門家会合が二日、初会合を開き(II写真)、東京電力が実施中の地盤改良工事による止水措置に伴う地下水上昇への応急的対策の他、汚染水の供給源となる海側トレンチの水抜きなど、抜本的対策について検討を行う。また、東京電力は二日の会合で、地下水からのトリチウム流出量の暫定値を報告した。規制委では、海洋モニタリングについて別途、検討会を立ち上げる(II写真)としている。

世界に平和を 若者の声で  
ユース非核特使委嘱 高校生たち国連へ  
ヒロシマ、ナガサキの被爆者が高齢化が進むところ、核の惨禍を広く国際社会に伝える活動をサポートする「ユース非核特使」の第一号委嘱式が七月二十九日、広島市で行われ、岸田文雄外務相が十五名の高校生たちに委嘱状を手渡し、若い皆さんの取組が

核兵器廃絶に 日本が先導を  
広島市平和祈念式  
広島市原爆死没者慰霊式と平和祈念式が六十八日、広島市中区の平和記念公園で開催された(II写真)。

除染不備報道 事実認められず  
環境省  
環境省は一日、日本原子力研究開発機構が南相馬市で平成二十三年十二月〜平成二十四年二月に実施した除染モデル実証事業で、一部報道された問題について見解をまとめた。

故吉田所長 告別の会  
東京電力  
東京電力は六日、七月九日に永眠した故吉田昌郎・同社執行役員/元福島第一原子力発電所所長の「告別の会」を二十三日午後一時から二時まで東京・港区の青山葬儀所で執り行うことを発表した。喪主は妻・洋子さん。献花のみで、参加は平服でとのこと。香典、供花、供物等は辞退している。

除染不備報道 事実認められず  
環境省  
環境省は一日、日本原子力研究開発機構が南相馬市で平成二十三年十二月〜平成二十四年二月に実施した除染モデル実証事業で、一部報道された問題について見解をまとめた。